

## 平成27年度第1回井波地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成27年5月21日（木）午前9時30分から11時25分まで
- 2 開催場所 南砺市井波庁舎3階多目的ホール
- 3 出席委員 13名 島田勝由、西村一郎、藤井正雄、北 修、高桑良昭、  
窪田育夫、藤井多鶴子、丸山祐市、川原正彦、谷田隆信、  
石岡敬夫、長田正勝、大橋亮輔
- 4 欠席委員 2名 松田博志、田邊昭代
- 5 市側出席者 田中市長、高山総務部長、長澤市長政策室長、原田産業経済部長、  
宮崎市民協働課長、齊藤財政課長、水口市民協働係長、山田秘書  
係長、川原井波行政センター長、池田井波行政センター次長
- 6 傍聴者 無
- 7 協議議題
  - (1) 平成27年度南砺市予算について
  - (2) 公共施設総合管理計画の作成について
  - (3) まち・ひと・しごと創生事業（総合戦略）について
  - (4) 定住促進事業について
  - (5) 福野工場用地活用基本計画について
  - (6) 南砺市中小企業・小規模事業者振興基本条例について

## 8 会議経過

### ○開会

事務局（センター長）から開会と本審議会の成立の宣言を行う。

### ○委嘱書の交付

センター長より交代による新委員の紹介を行い、委嘱書（机上配布）を交付する。

### ○会長あいさつ

いよいよ南砺市も11年目に入った。今年は地方創生の元年である。ご存知のように昨年11月に国では地方創生に向けた「まち・ひと・しごと創生法」が施行されて、この1月に南砺市地域再生計画が安倍総理大臣から認定を受けた。田中市長もたいへんであるが、我々もしっかりとサポートしていきたい。

また、井波地域では閑乗寺公園の開発振興策については特に大型事業であり、市民の納得いく開発がいち早く施工されるようお願いする。

私は自治振興会のお世話をしているが、市役所は市民の声をしっかりと聞いてくれるという安心感が一番大事なことで基本だと思っている。

### ○市長あいさつ

我々が今、地方創生という事業を進めていく元年の年であるが、まだいろいろと

試行錯誤の面もある。今までの地域活性化の事業は、福祉であったり、産業、商工業、観光などいろいろとあるが、それらが横串で一緒になっていたのかと今考えると少し考え直すところがあったのではないか。行政（国、県、市）と民間や住民、各種団体の皆さんとのかかわりの仕組みも、今までのままで未来に向かって良いのか。この1年の中で市民の皆さんと将来の地域をどうするかデザインしたい。まただれが何をしていくか役割を明確にしていきたい。そのことが、地域の将来像を描くこと、今までできなかったかも知れないが、「地域で稼いで循環する型、持続する型」にシフトしていく必要がある。

今日は、皆様の率直なご意見を賜りたいと思っている。

#### ○協議議題

島田会長が議長となり、順次議事を進める。

- (議長) 議題1 平成27年度南砺市予算についての説明を求める。
- (高山部長) (「平成27年度予算のあらまし」を用いて説明を行う。)
- (議長) 議題1の質疑を求める。
- (委員) 金沢大学との官学連携があるが、富山大学とは連携はないのか。
- (長澤室長) 南砺市は人気があり、富山大学からも提携できないかと話はあるが、提携までには至っていない。理学部を中心に事前協議をしようかなというレベルです。
- (市長) 富山大学は国の指定校になっていない。医学部と市民病院とは濃いものがある。
- (委員) 南砺市は金沢へシフトしているのか。ここは富山県内の連携も南砺市全体として考えていくべきでないのか。
- (市長) 観光の面でも富山県全体での強い連携は進めているが、金沢や高山など県外との連携はどうしてもメディアに出やすい。県内はおもてに出にくい。
- (委員) 防災行政無線設備整備があるが、聞く方としては環境が変わるのか。
- (高山部長) 今年度は移動系なので変わらないが、来年度はデジタル化しスピーカの位置も若干変更し、近くはやかましくなく遠くへは届くような整備を考えている。
- (委員) 風害について、今どれだけの風速があるのか市民への周知方法はあるのか。
- (高山部長) 南砺市は広い。雨の場合、大雨警報が出ていても降っていないところもある。今年度からウェザーニュースで市内6カ所に区分した情報がもらえることになった。暴風警報は市ホームページにアップする。
- (委員) 先日の大風で、消防署井波庄川出張所で最大瞬間風速42.5mを記

録した。今後、井波庄川出張所は高瀬野能原地内に位置が代わるが風速の差がある。強風があるところに測候装置を残してほしい。また、井波風の学習の一貫として井波小学校・中学校に測候装置を設置すればどうか。気象庁の公式の測候所は福光高宮にあり、砺波市に警報が出ていても隣接する井波に出ていないこともある。

(高山部長) 情報発信の仕方については、検討したい。測候所をできるとかできないとかは言えない。

(委員) 金沢井波バス実証実験だが好評で今後も継続してほしい。バス停に駐車場がないところもあるので、本格稼働になればバス停の見直しをするのか。

(長澤室長) とりあえず利用の状況がどれくらいあるか社会実験を今13ヶ月間行う。まず井波始発で5ヶ月、そのあと城端始発、福光始発でどこの需要が多いのかを見ている。実際に運行することとなるとバス停の数、位置とかの話は出てくる。まず、商業ベースに乗るかどうかが一番大事なところで、多いに利用してほしい。

(市長) 井波の皆さんにたいへん理解いただき確実に利用が増えている。本来は井波と金沢を結ぼうという構想から始まっている。実証実験は1年以上はできないので、いろいろと地区を分けてみて全体的に商業ベースに乗れば今の路線で良いのではとの思いがあるが。城端始発となると当然井波は減る。その辺をどうするのか。とにかく皆さんPRしていただきこの13ヶ月間の人数を確保していくようご協力願いたい。

(議長) 井波には駅(鉄道)がない。乗車人数の結果もあるが、井波の地域性も考慮に入れてほしい。

(市長) 最後は採算ベースが必要だ。

(委員) 8月から城端発となるが、金沢からの帰りの最終2便では井波に帰れない。福光での乗換えとなるが、なんバスの接続を考えてほしい。

また、富山へのバスであるが、城端、福光、福野を通る高速(通勤)バスはJR城端線があるので、井波を通るようにできないか。

(市長) 朝の通勤バスは、バス会社のドル箱である。既成の路線変更は陸運局への相当のパワーが必要である。地道に活動で一步步つ定期便になっていくよう力添えを約束する。

(委員) 金沢大学附属病院へは、金沢駅まで出て市内循環バスに乗らなければならず、倍の時間を要す。観光には良いが病人には辛い。

(長澤室長) 北陸鉄道バスと加越能バスは競合して走れない。ただ儲かるとなれば共同運行で病院前を経由して金沢駅への路線もあり得る。乗ってもらえるかどうかである。

- (議 長) 議題2 公共施設総合管理計画の作成について、議題3 まち・ひと・しごと創生事業(総合戦略)について、議題4 定住促進事業について、議題5 福野工場用地活用基本計画について、議題6 南砺市中小企業・小規模事業者等振興基本条例についてを一括して説明を求める。
- (長澤室長) (長澤市長政策室長より議題2～議題5について資料を用いて説明を行う。)
- (原田部長) (原田産業経済部長より議題6について資料を用いて説明を行う。)
- (議 長) 議題2～議題6について一括して質疑を求める。
- (委 員) 私の会社では今年度14名を新規採用し、うち8名は県外市外からであった。現在、来年度に向けて単独で説明会等を進めているが予定の3分の1程度で採用予定20名に達するのは不可能に近い。南砺市の人が東京や大阪などの大学へ行っても帰って来ない。そこでの富山県内の企業の会社説明会や入社試験の受験の機会がないからだ。富山県が合同して説明会や採用試験に出向くようにすべきだ。また県外市外から採用しても南砺市で住むところがなく、やむなく隣市に住んでいる。南砺市を増やしたいと思っている。
- (市 長) 前々から東京、大阪での説明会、入社試験の話は聞いており、南砺市だけで実施して何社集まるかということもあったのだが、県単位で実施することはたいへん効果のあることだと思う。今、県の定住移住促進の委員をしているので早急をお願いすることにしたい。アパートとなると民間の方にいかに建ててもらえるか、市営住宅の入居条件をどうするのか早めに検討したい。
- (委 員) 新しい雇用の創出ということがよく書かれているが、これから砺波でイオンができ、小矢部でアウトレット、小杉のコールセンターとか大きい雇用場所が他の市が増えてくる。時給がすごく上がってきている。そこへ供給されていく先が砺波・南砺地区と考えられる。今働いてもらっている人がそこへ移動していく可能性がある。その対策は考えているか。
- (市 長) 小杉コストコでは時給1,200円が出ている。砺波も小矢部も上がってくるだろう。社会保障制度のあるところへいかに入っていただくか、どう啓発していくか悩んでいる。
- (委 員) 時給ばかりでなく託児所も含め職場環境もよい。
- (市 長) 行政として保育園の延長・土曜・休日保育と放課後児童保育を充実にかなり力を入れている。職場としては市外であるが、住みやすい・子育てしやすい街としてアピールして今年度はインパクトのある事業を

いくつか入れている。

(議長) そろそろ2時間経過しようとしています。長時間にわたりご審議いただき厚くお礼申し上げます。

○閉会

事務局（センター長）から閉会の宣言を行う。